

2020年度（2019年夏実施）以降の入学試験では以下の変更を行います（赤字で変更箇所を示します）。

(1) 基礎科目の出題範囲を次のように変更します。

数学：主に微積分、線形代数、微分方程式、ベクトル解析、フーリエ解析の範囲から出題します。

物理学：主に力学、振動・波動論、電磁気学の範囲から出題します。

化学：主に気体分子運動論、化学平衡論、反応速度論、熱化学、原子の構造の範囲から出題します。

地質学鉱物学：主に岩石学、鉱物学の範囲から1問、古生物学、堆積学、古環境学、構造地質学の範囲から1問出題します（変更無し）。

プレートテクトニクス：主にプレートテクトニクスに関連する基礎知識と理解を問います（変更無し）。

(2) 物理学の問題数を3問から2問に削減します。

基礎科目として、数学1問、物理学2問、化学1問、地質学鉱物学2問、プレートテクトニクス関連1問の計7問を出題しますので、それから2問を選択して解答してください。

(3) レポート①の内容を以下のように変更します。

①これまでに勉強したことや携わった研究・調査などで（地球惑星科学の分野に限りません）、地球惑星科学への志望に関連して特に関心を持った内容

(4) レポートは日本語または英語で作成してください。口頭試問は日本語で実施しますが、希望する場合は英語でも実施します。なお、口頭試問では、専門分野の適性及び知識、研究への意欲等を評価します。